

アイスタに3年ぶりの歓声！

南陵新聞

編集・発行
静岡県立
清水南高等学校
新聞部
伏見さち
下山菜凜

サッカーで清水を笑顔に

3月12日、IAIスタジアムで清水エスパルスVS大分トリニータの試合が行われた。試合前は、公式グッズの他たくさんのお店が出店したイベントブースが設置され、会場を盛り上げた。

◆試食解禁！ 鈴与食品グループ

エスエスケイフーズ、清水食品、モンマルシェの3社は合同出店にて、スープやドレッシングの詰め合わせを販売した。多くの人に好評なこの詰め合わせは、いつも200セット全て完売する。通常2004円の商品が半額の1000円で販売され、今回はコロナ対策によってできなかった試食も解禁された。



↑販売する野菜をさ
な佐野さん
ぶるな
スー
販売

◆みんなで応援！ 清水エスパルス公式グッズ

イベント会場で一番大きな店は清水エスパルスの公式グッズが売っているショップだ。スタッフの鈴木さんによるとこのショップには、100種類以上のグッズが販売されており、毎回500万〜600万円ほどの売り上げがあるそうだ。このショップでは飲食物の販売はしていないため、コロナ禍でも大打撃とまではならなかったそうだ。

人気の商品はやはり選手のユニフォームで、特に開幕戦が近づくとたくさん売れるそうだ。会場には子供から大人まで公式グッズを身に着けた人がた

提供できなかった期間は、実際に商品を見せたり、プレゼンをしたりして販売していたそうだ。試食解禁に伴い、出来立てのスープを提供できることは大きな変化となったに違いない。

◆激アツ！ エスパルスサポーター

石川さん、ピカさん、三浦さんはエスパルスサポーターになって知り合った。石川さんはリーグ開幕当初から応援されている古参ファンだ。ピカさん、三浦さんはエスパルスの出場する試合を全て見に行っているそうだ。3人はそれぞれ推しの選手のユニフォームを着て、たくさんのグッズを身に付けて応援に来ている。グッズには年間15万円ほど使っているそうだ。中でもピカさんは、全身エスパルスコーデを組んでおり気分十分、石川さん、三浦さんからは「オシャレ部長」と呼ばれていた。

くさんいて、サポーター同士で食事をしたり、記念撮影をしたりしていた。

スポーツ観戦はたくさんの方と交流できる素敵な機会だ。その話のきっかけとして公式グッズを身に付けるのもいいだろう。今回の大会では、入場時、先着12,000人に「オレンジフリスポンチョ」が配られた。このポンチョには大きな文字で「SPULSE」と書かれており、たくさんの方が身に付けていた。写真のお二人は「初めて観戦に来たが、このようなグッズを配ってくれて嬉しい。またこのような機会があったらタオルなども配ってほしい」と話してくれた。



↑左から石川さん、ピカさん、三浦さん
鮮やかなユニフォームとたくさんのグッズに身を包んでいる。

◆子供連れにも嬉しい！ イベントスペース

3人が思うエスパルスの魅力は「ディフェンダーが強いこと、どの選手もひたむきに頑張っていること」だそうだ。そしてもちろん毎試合、白星に期待しているそうだ。サポーターはみんな友達感覚でどんな人でも仲良くなれる。特にエスパルスサポーターはみんな和気あいあいとしており、たくさんの方が歓迎してくれる。気になった人は観戦に行ってみてはどうだろうか。

ちとせさんは、ご両親と一緒に観戦に来ていた。今までに数え切れないほどの試合を見に行ってきたそうだ。お気に入りのグッズはバルちゃんのコインケースで、観戦に行くときサポーターの人たちがお菓子をくれて嬉しい、と教えてくれた。



↑ちとせさんご両親
家族みんなで様々なイベントを楽しんでいた。

◆初来場！

大分トリニータサポーター
今回はビクターチーム「大分トリニータ」のサポーターにもインタビュースせていただいた。

「マスケットキックの「二ータン」のぬいぐるみをもっていたのは、知念たかさん。今回はIAIスタジアム、初来場だ。『大分には球技専用の会場がないからとても新鮮に感じる』と話してくれた。前泊して静岡に来たところ、たくさんの方が声をかけてくれたり「明日試合ですね！』と気づいてくれて嬉しかったそうだ。また、多くの家がエスパルスの旗を飾っていたのを見て「本当にサッカーが身近にある県なんだと思った。知念さんが思う大分トリニータの魅力は「ゴールの守りが強いこと、華麗なプレーを見せてくれることが魅力だと話してくれた。また、試合前のイベントについては「楽しめる場所がたくさんあるため、子供も退屈しないで待つことができる。サッカー以外の楽しみがあることが嬉しい」と教えてくれた。

家族連れでも楽しめるこのイベント。今後もこんなものが開催されるのか、期待が集まる。

いこと、フオワードも強く選手がサツと出ていくこと』だそう。推しの選手は元エスパルスの長沢駿選手で、瞬発力と体を張っていることが素敵だという。

IAIスタジアムではエスパルスのサポーターとトリニータのサポーターが交流する場面も見られた。ビクターチームとの交流も大切な機会だと思う。



今回の試合の来場者数は13,658人。朝早くから多くのサポーターが開場を心待ちにしていた。

←メインスタンドの開場を待つサポーターたち



南陵新聞

編集・発行
静岡県立
清水南高等学校
報道部田邊皓星
宮本和奏目指せJ1復帰！
清水エスパルスVS大分トリニータ演奏で選手を応援！
清水桜が丘高校吹奏楽部

3月12日にIAIスタジアムで行われた清水エスパルスVS大分トリニータ戦。試合当日、スタジアムには13658人もの両チームのサポーターが訪れ大賑わいとなった。試合の前にはたくさんのイベントも催され、訪れたサポーター達を楽しませていた。

3月12日にIAIスタジアムの特設ステージにて静岡市立清水桜が丘高校の吹奏楽部が演奏を行った。今回は部長の増田優月さんと沓間真実さんに取材させて頂いた。



↑ 増田優月さんと沓間真実さん

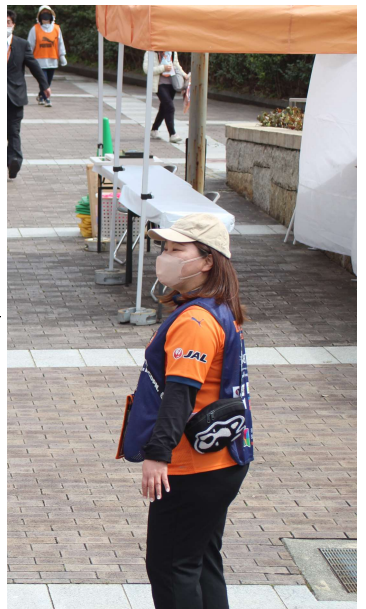
吹奏楽部が清水エスパルスとコラボを行い始めたのは2年前からである。3回目となる今回の演奏は、31名の部員により行われた。今回コラボに参加できたことについて何うと、一回もこの吹奏楽部を呼んでくれてとても嬉しい」と話してくれた。

今回演奏したのは「ディープ・パープル」メドレー、雷神、ゲリコ、清桜サンバの計4曲だ。それぞれの曲の聴きどころについて伺ったところ、1曲目に演奏した吹奏楽部の十八番である「ディープ・パープル」メドレーでは「振り付けとパートごとのソロに注目してほしい」と話してくれた。2曲目の雷神は清水エスパルスの選手入場曲である。今回は吹奏楽部用にアレンジされたものを演奏した。「一曲の始まりである金管楽器のメロディーに注目して聴いてほしい」とのことだった。また、吹奏楽部はこの曲をステージ発表後の実際の選手入場でも披露した。3曲目のゲリコは清水エスパルスの応援歌の一つである。Jリーグの試合での声出し応援が可能になったことから、声出しをしながらパフォーマンスをした。今回、この曲は吹奏

↓ 試合前には雷神を演奏、会場はサポーターの声援と共に一体に

試合を支える
パルちゃんクラブ

IAIスタジアムは、清水エスパルスのホームゲーム時には多くのイベントが行われ、たくさんの方で賑わう。そんな中でも円滑にイベントを進めることができるのは縁の下の方たちの存在が大きい。パルちゃんクラブはエスパルスのホームゲーム時にイベントの進行を支える活動を行うボランティアクラブである。今回の試合では静岡北高校の生徒も参加し、チケットの確認や入場列の整理、特典品の配布など多く活躍した。今回、活動に参加した方は会場の明るい雰囲気の中でみんな楽しんでいると話していた。



「青いベストを着て行列の整理に徹するパルちゃんクラブの方

と話す。また、10年ほどこのボランティアに参加しているという女性は「スタジアムにたくさんの方が来てもうえることが励みになっている。静岡城北高校や清水桜が丘高校の生徒の方たちも参加してくれた。若い人たちが頑張っている」と話していた。

て思い出になった。」と笑顔で話した。

今回設けられたフォトスペースには途中、パルちゃんも訪れる選手の大パネルと記念撮影をするなど多くのサポーター達を楽しませていた。普段見えない選手とは異なった格好の選手を見られるこのフォトスペースは訪れたサポーターのいい思い出になったことだろう。

と話す。また、10年ほどこのボランティアに参加しているという女性は「スタジアムにたくさんの方が来てもうえることが励みになっている。静岡城北高校や清水桜が丘高校の生徒の方たちも参加してくれた。若い人たちが頑張っている」と話していた。

スタジアム外の広場にはフォトスペースが設けられ清水エスパルスの選手の等身大パネルが特設で用意された。普段目にする選手とは一味違い鈴与グループの制服に身を包んだ選手の姿に、一緒に記念撮影をするサポーターの姿が多く見られた。写真を撮影に来ていた親子連れは「いつものユニフォーム姿の選手とは違う姿が見られ、また一緒に写真を撮ることができて面白い。北川航也選手が好きなので一緒に写真が撮れる」と話していた。

トリニータサポーター
ニータンと共に応援

大分トリニータのサポーター武田さんは神奈川県から大分トリニータを応援するためにこのIAIスタジアムに足を運んでくれた。大分トリニータを応援し始めてからは7年ほど経つという。武田さんの推しは伊佐耕平選手。伊佐耕平選手の背番号13のフォワードで、2014年から大分トリニータに在籍している選手だ。武田さんは大分トリニータについて今日も頑張っている」と期待していた。

武田さんがカーポートに乗せているのは大分トリニータのマスコットであるニータンとリッジのぬいぐるみだ。武田さんはぬいぐるみに興味を示した子供たちへ近くで見せてあげたり、写真を撮らせてあげたりしていた。また、大きいニータンのぬい



リッジはニータンが誕生する1年前に誕生したキャラクターで、準マスコットとして活動している。2007年に行われたJリーグの前半戦であり勝利星を上げられなかった大分トリニータが後半戦で巻き返そうと立ち上げたのが「リベンジ16」というプロジェクトだ。そのプロジェクトのシンボルキャラクターとして誕生したのがリッジである。ニータンには「リッジ先輩」と呼ばれている。